

手帳や日記、継続に必要なのは？

文具王、かく語りき

令和二年も終わりを迎えつつある今日このごろ。年賀状や新しい手帳のことを考え、楽しみ半分、ユウウツ半分、なんて人もいるのでは？そんな人に、書くことが大好きな文具王・高畑正幸さんの話は必見です。

文具王

高畑正幸

●たかばたけ・まさゆき 1974年香川県生まれ。「TVチャンピオン」(テレビ東京)の全国文具通選手権で3回連続優勝を果たし、文具王に。「文具語辞典」(誠文堂新光社)など著作多数。文具情報サイト「文具のとびら」(<https://www.buntobi.com>)編集長や、YouTubeの文具解説などでも活躍中。

「書く」は楽しい

——文具王といわれる高畑さんが、普段どんな文具を使っているのか、とても気になります。

手書きするのが好きなので、ポケットにはいつも何かしら筆記具が入っています。外出先でちょっとメモするときに、最近は万年筆を使っ

ているんですが、書斎の文具と想像がちな万年筆も、携帯時はコンパクトながら使用時には使いやすい長さになるキャップ式のものや、ノック式など、外で使うのに便利な万年筆もあるんです。

家で万年筆を使うときは、書くこと自体が楽しいタイプを選ぶことが多いですね。カリカリ、ヌルヌル、サラサラなど、書き味の特徴はペン

ります。

——カラーバリエーションがあるとあれこれ試してみたくになりますね。

書く内容や、書く紙ごとに色を変え、いろいろあります。

書き心地を追求した紙なんていうのもちゃんとあって、万年筆やボールペン、鉛筆など、筆記具ごとに、それぞれに合ったメモやノートがあるので、紙でもいろいろ遊べるんですよ。

「ルール」がハードルを下げる

カラーバリエーションといえば、「書く」ほうの文具具にこそ、いろいろありますよね。

先日訪れた文具の展示会では、描いた線を濡れた筆でなぞると色が溶け、水彩絵の具のようになる色鉛筆を見つけました。水溶性色鉛筆そ

のものはいくつかのメーカーから出ているんですが、この色鉛筆には水を入れて携帯できる筆ペンのほか、薄いまな板みたいな付属品がついている。まな板的なものの上に色鉛筆を塗り、水を含んだ筆で混ぜると水彩絵の具を作ることができて、要するにこれ、パレットなんです。

——面白い！ 使い方が新鮮です。一風変わった使い方というだけで、ワクワクしますよね。「そうはいっても絵心がないから、自分には縁がない」という人がいるかもしれないが、自分には絵心がないから画材には触れないというのは、もったいないと思います。

僕には「赤いスケッチブック」というスケッチブックがあります。赤い画材だけを使うためのスケッチブックなんです。クレヨンなんかはバラ売りしている店があるので、そ

の数だけあって、その違いを味わうだけでも楽しい。

一般的な万年筆はインクを吸入するようになっていて、それが面倒と感じる人もいますが、そういう人にはカートリッジ式がオススメです。価格も瓶のインクに比べて手頃だし、定番の黒やブルーブラック以外にも、メーカーによっては色が豊富で、見ているだけで楽しくな

の中から赤だけを買ってきて、最初はただ塗りたいくらい、そのときの気分が水玉やらストライプやら、適当な絵柄を描いていく。そうやっていくつもの画材を使ってみると、一口に赤といってもけっこう違いがあるのがわかります。できたものは別に立派でも芸術的でもないんですけど、これだけで十分楽しいんですよ。

「赤いスケッチブックには、赤い画材を使う」みたいに、ある種の「ルール」があったほうが、絵を描くハードルはずっと下がります。一日ひとつの筆記具を選び、実際に使ったその筆記具についての感想を書いたのノートなんてものも作っているんですが、ポイントは、あえて一日ひとつしか書かないこと。これもハードルを下げるためのルールで、それくらいなら書けそうだと思います